飛騨市まちづくりレシピ♪

VOL.48

まちづくりって特別なことじゃなく、みんなの暮らしがちょっと豊かになる活動。
飛騨市内で活動されているまちづくり団体を紹介していきます。
気になる活動があれば、気軽に参加してみませんか？

飛騨の森をもっと身近に 広葉樹の素材をもっと身近に

飛騨市地域おこし協力隊　及川 幹さん

▲飛騨の森を知ってもらう取組み

▲作り手と素材とのマッチング（商談）風景

▲広葉樹の短期乾燥プロジェクト

飛騨市は 94%が森林ですが、そのうち 68%が広葉樹。その為、豊かな山からミネラルいっぱいの水が生まれ、美味しい作物が育っているといわれていますが、針葉樹と違って、広葉樹は建材や家具には使いづらいと活用が進んでいませんでした。そんなもったいない状況を改善しようと、2014 年、飛騨市は「広葉樹のまちづくり」活動をスタート。今回は 2020 年から広葉樹担当の地域おこし協力隊として活動されている及川さんにお話を伺いました。

幼少期はお父さんの仕事の都合でブラジルで育ったという及川さん。「ブラジルと日本では良いこと、悪いことの違いが大きすぎて。文化の違いに関心を持ちました。そこから人と自然の関係性に興味を持ち、大学では民俗学を学んだんです。」そんなバックグラウンドから林業を仕事にした及川さん。豊田で針葉樹を扱う仕事をしていました。

「子どもが生まれるタイミングで、どこで子育てをしようと考えるようになりました。林業をやるなら次は広葉樹に携わりたいと考えていたんですが、そんな時に飛騨市の募集と出会いました。」

晴れて協力隊に任命されるも、時はちょうどコロナが広がり始めていた時期。最初は単身赴任で、一人で飛騨市に移住しました。

「人に会いづらい時期で、活動しにくいところもありましたが、その分、最初は森林組合、製材所、ヒダクマなどの飛騨市の広葉樹に関わる企業で研修させてもらいました。」そうして市内から市外へ情報収集や人脈を広げていき、現在は「飛騨の広葉樹を活かす、新しい流通の仕組みづくり」という大きな目標に向かって進んでいます。

「広葉樹は針葉樹に比べたらまだまだ市場規模も小さいです。樹種が多く、色や形にもばらつきがあり、扱いが難しいですが、そことどう付き合っていけるか。飛騨の森や素材の特徴にあわせて、流通を考え直すこと。そして作り手から地域の方々まで、広葉樹との多様な関わりを生み出していくこと。難しいけど可能性があると思っています。」そう語る及川さんは、「眺木展」を企画したり、広葉樹を販売する「蔵出し広葉樹」を行い一般向けに認知を広げています。その一方で、企業や作家などのプロ向けに飛騨の森を紹介したり、作り手と素材のマッチング、木を流通させる上で欠かせない「短期乾燥」のプロジェクトなどにも挑んでいます。

「林業は川上の山での伐採から、川中の製材所、川下のメーカーや作家さんなど、一人ではできない、多くの人が関わる産業です。単独では難しい事業ですが、自分がみんなの仕事のハブになって好循環が生まれるような仕組みづくりができないか。今はその方法を模索しています。」

飛騨の豊かな森が今後も続いていくためにも、及川さんの挑戦、広葉樹のまちづくり活動を応援したいですね。

基本情報

着　　任：2020 年 4 月
活動地域：飛騨市内
主な活動：広葉樹の魅力の発信や、川上から川下を繋いだ新たな販売ルート、マーケットの創出など。

▼木を眺める眺木展を円光寺で開催。

▲蔵出し広葉樹は定番イベントになってきました！

飛騨市のまちづくり最新情報はこちら▶
https://www.city.hida.gifu.jp/site/hidaplus/

UD FONT by MORISAWA
VEGETABLE OIL INK 再生紙と環境に優しい植物インキを使用しています。
●発行／令和４年10月17日　飛騨市役所　●編集受託／てのひらプロダクツ　●印刷受託／有限会社村坂印刷
〒509-4292　岐阜県飛騨市古川町本町2番22号　TEL 0577-73-2111　URL https://www.city.hida.gifu.jp/